

水と緑の森づくり事業について
 ～みず・みどり みまもりはぐくむ 森が好き～

H21.10 島根県農林水産部林業課

I はじめに

島根県では、水資源のかん養、県土保全等全ての県民が等しく享受している安全で安心な生活に不可欠な公益的機能を有する森林が県民共有の財産であるとの認識に立ち、荒廃森林を再生させ水を育む緑豊かな森を次世代に引き継いでいく責務を果たすことを目的として、平成17年度に「島根県水と緑の森づくり税（以下「水森税」といいます。）」条例を制定しました。

この税を財源として、荒廃した森林の再生を図るとともに、県民のアイデアと参加により、新たな森づくりの取り組みを行い、県民主体の森づくりが将来にわたり続いていくことを目指して「水と緑の森づくり事業（以下「水森事業」といいます。）」を展開してきました。

水と緑の森づくり税は、導入から5年が経過することから、これまでの事業成果の検証を行い、今後のあり方について報告します。

II 島根県の森林の現状

1 島根県の森林面積

島根県は、県土の総面積67万haのうちの52万6千haが森林であり（表-1）、その割合（森林率）は、79%と全国第3位の緑豊かな森林県です。

民有林の38%にあたる18万6千haは、スギ、ヒノキ、マツなどの人工林で、植栽後36～40年生をピークとした山形となっています（図-1）。

表-1 島根県の森林面積

国有林	民有林			森林面積 (A)	森林以外	合計 (B)	森林率 (A)/(B)
3万3千ha	49万3千			52万6千	14万4千	67万	79%
	人工林	天然林	その他				
	18万6千	28万7千	2万				

出典：森林資源関係資料（島根県森林整備課 H19末現在）

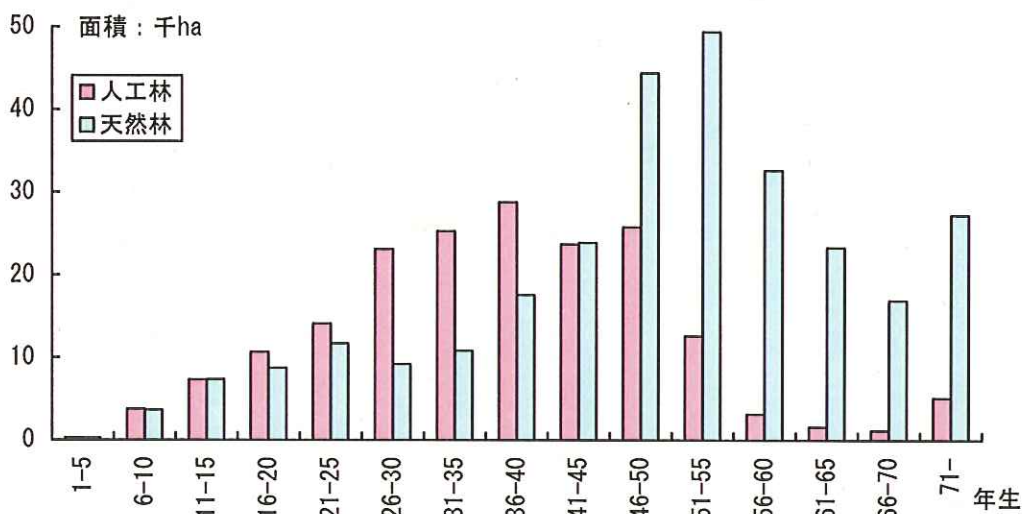


図-1 民有林森林資源構成

2 島根県の森林機能の評価額

森林は、水資源のかん養や土砂流出防止など、私たちの暮らしに役立つ多くの機能を持っています。これらの機能を金額で評価すると、島根県の森林では、1年間で約1兆7千億円にもなります（表-2）。

表-2 島根県の森林の機能別の評価額

機能の種類	島根県の評価額	備考
水源かん養機能	6, 462億円	森林への土壌が、降水を貯留し河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水、濁水を防ぎ、さらにその過程で水質を浄化する役割
土砂流出防止機能	6, 888	森林の下層植生や落葉落枝が地表の浸食を抑制する役割
土砂崩壊防止機能	1, 650	森林が根系を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防ぐ役割
保健休養機能	138	森林が人に安らぎを与え、余暇を過ごす場として果たしている役割
野生鳥獣保護機能	785	森林が果たしている野生鳥獣の生息の場としての役割
大気保全機能	1, 067	森林がその成長の過程で二酸化炭素を吸収し、酸素を供給している役割
計	1兆6, 990	

注：日本学術会議の全国の試算を基に、島根県で試算した
2000年の全国の評価額は、およそ75兆円

3 荒廃森林

(1) 荒廃森林の状況

島根県の民有林のうち、長期間にわたって間伐されていない森林や松くい虫被害などにあい荒廃している森林は、民有林全体の23%にあたる11万3千haあり（表-3）、森林のもつ様々な公益的機能の低下が懸念されます。特に、間伐未実施林は、荒廃森林の73%を占めることから、緊急な対策が必要で、水森事業では、間伐未実施林のうち植栽後41年以上経過している水源林およそ1万haを中心として荒廃森林の再生を行ってきました（写真-1）。

表-3 荒廃森林の状況

島根県の民有林面積	49万3千ha
荒廃森林	11万3千ha
・ 間伐未実施林	8万3千
（うち植栽後41年以上経過している森林）	(3万0千)
・ 松くい虫被害地など	3万0千



写真－1 不要木の伐採を行い、広葉樹を植栽した森林（雲南市）

Ⅲ 現行制度の概要と実績

1 制度の概要

水森税収は、「島根県水と緑の森づくり基金条例」により基金として積み立て、島根県が行う水森事業に充ててきました。

○ 課税方式・税率：県民税均等割の超過課税

個人の均等割：500円/年、法人の均等割：5%/年

○ 期間：平成17年4月1日～平成22年3月31日（5年間）

表－4 水と緑の森づくり税収と水と緑の森づくり事業費の推移

年度	H17	18	19	20	21	22～	合計	
税収	151百万円	210	210	209	209	51	1,040	
基金積立額	139	201	200	196	203	51	990	
事業費	①森づくり推進事業	13	10	9	10	10	—	52
	②森づくり・資源活用実践事業	40	38	26	30	30	—	164
	③県民再生の森事業	24	35	227	274	163	—	723
	事業費計	77	83	262	314	203	—	939
年度末基金保留額	62	180	118	1	0	—		

資料：島根県税務課・林業課

水森事業では、①県民の森づくりをサポートする「森づくりプロデューサー」の養成・派遣や県民に水森事業の実施状況をお知らせする「みーも通信」の発行などを行う「森づくり推進事業」、②県民の主体的な森づくり等を支援する「森づくり・資源活用実践事業」、③荒廃林を再生させる「県民再生の森事業」を実施してきました。

これらの取り組みにより、平成17-20年度に4万6千人以上の県民参加による森づくりが行われ、県民主体の森づくりが進みました。また、平成17-20年度に約2千7百haの荒廃林の再生を行いました。

2 森づくり推進事業

(1) 成果

1) 水と緑の森づくり会議

広く県民の意見を聞き、「水と緑の森づくり」に関する施策展開に資することを目的として、県民からの公募又は指名による10人の委員で構成する「水と緑の森づくり会議」を開催し、平成17-20年度に40人の委員から、水と緑の森づくりについて意見をいただき、事業に反映させてきました(写真－2)。



写真-2 水と緑の森づくり会議（平成20年度）

この会議では、イメージキャラクター「みーもくん」（図-2）やキャッチコピー「みず・みどり みまもりはぐくむ 森が好き」の決定（H17）、森への思いの募集（H18）、水と緑の森づくり実践表彰（H19）の審査等を行いました（表-5）。



みーもくん

図-2 水と緑の森づくりイメージキャラクター「みーもくん」

この会議の開催により、水と緑の森づくり事業は、常に県民の声を聞きながら事業実施ができたほか、県民の目線に立った施策の展開と、普及啓発活動を行うことができました。

表-5 水と緑の森づくり会議開催状況

	開催回数	委員数	主な検討内容
平成17年度	4回	10人	森づくり・資源活用実践事業の審査 イメージキャラクター・キャッチコピーの審査 ホームページ作成案の検討 現地視察（雲南市 斐伊川流域林業活性化センターほか）
18	5	10	森づくり・資源活用実践事業の審査 「森への思い」審査 現地視察（益田市 中須海岸林ほか）
19	4	10	森づくり・資源活用実践事業の審査 水と緑の森づくり実践表彰審査 現地視察（松江市 かんべの里ほか）
20	5	10	森づくり・資源活用実践事業の審査 現地視察（大田市 石州素舞流ほか） 水と緑の森づくり事業の検証
計	18	40	

2) 普及啓発活動

・ 情報誌の発行

県民に水と緑の森づくり事業への理解を深めていただくため、平成17年7月から「みーも通信」を発刊しました。以後毎年4回（春・夏・秋・冬）発行し、各地域での取り組み状況等を掲載しています。

みーも通信は、市町村（公民館含む）、小中高大学校、JA、銀行、大規模商業施設、林業関係団体及び県の機関に、各号3万部（平成17年度は2.5万部）配布しています。

・ 県民1000人アンケート

県民の森林に対する意識や水と緑の森づくりの意識を調査するため、平成18年度から県内7地域で県民1000人を対象としたアンケート調査を実施しました（写真-3）。



写真-3 県民1000人アンケート調査（平成21年度調査 出雲市）

○ アンケート調査の結果

Q：森林への興味や関心はありますか

森への興味や関心が「ある」と回答した県民は平成18年度に21%でしたが、平成21年度の調査では、29%となりました。特に、興味・関心が「全くない」と回答した県民は、2.4%から1.0%となるなど、県民の森への興味・関心が深まっています（図-3）。

森への興味や関心が深まっている中で、県民の森づくりボランティアへの参加意欲は、「参加したいが機会がない」と回答した県民の割合が、46%と大きな割合を占めています（図-4）。

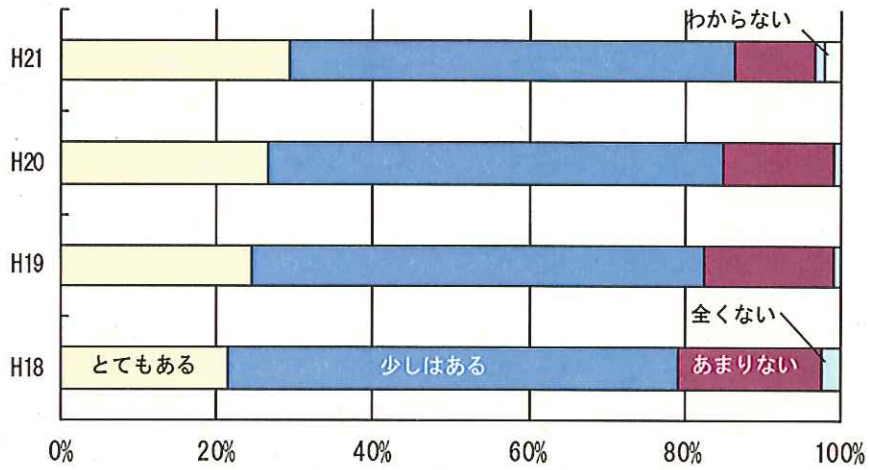


図-3 森への興味や関心はあるか

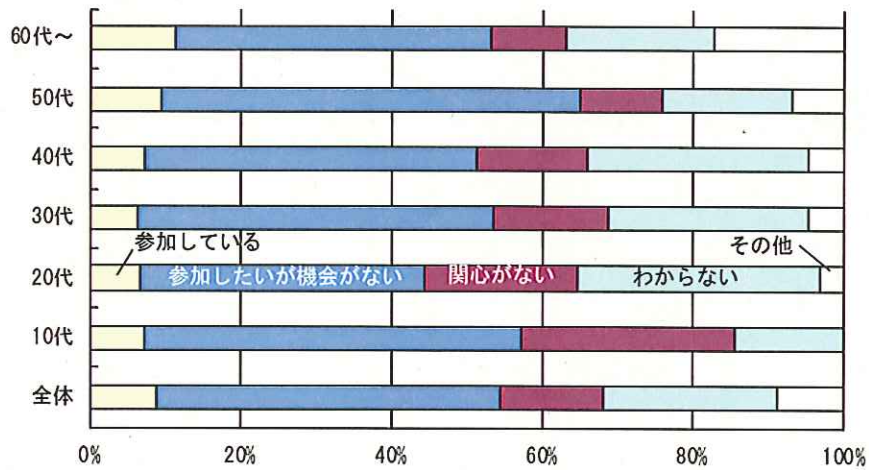


図-4 森づくりボランティアに参加しているか

Q：島根県の森林が荒れていることを知っていますか

森林が荒廃していることを「知っている」と回答した県民は平成18年度に31%でしたが、平成21年度の調査では、39%となり、県民が荒廃林の状況について認識を深めています（図-5）。

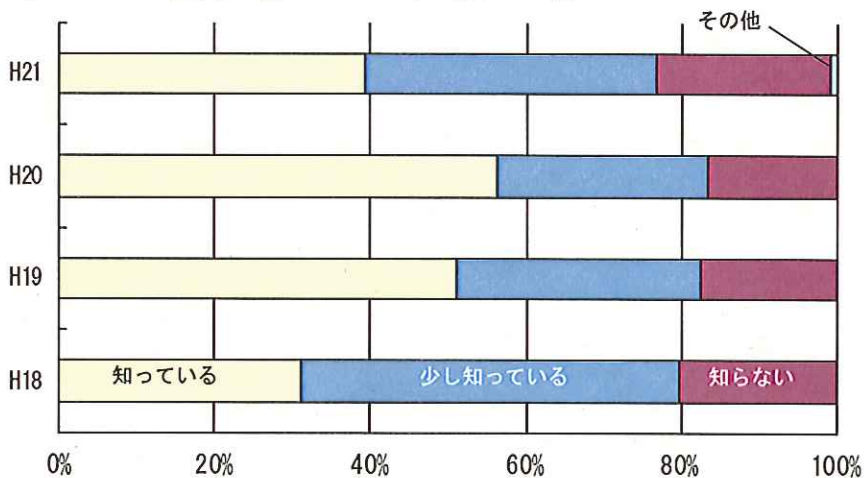


図-5 森林が荒廃していることを知っているか

3) 森づくりプロデューサーの養成

県民主体の森づくりを支援する目的で、平成17-19年度に「森づくりプロデューサー」の養成研修を行い、34人の森づくりプロデューサーを養成しました（写真-4、表-6）。



写真-4 森づくりプロデューサー養成研修（平成17年度）

表-6 森づくりプロデューサーの養成

	男性	女性	計
平成17年度	17人	2	19
18	7	3	10
19	5		5
計	29	5	34

森づくりプロデューサーは、4年間で2,467人の県民に対して、森づくりの支援を行いました（表-7）。

森づくりプロデューサーは、幼稚園から高齢者まで幅広い県民に対して、自然観察や木工教室で指導を行うなど活発な活動を展開し、県民の主体的な活動を支えています。

表-7 森づくりプロデューサー活動実績

	平成17年度	18	19	20	計
松江市		73	79	137	289
安来市				24	24
出雲市		393	567	430	1,390
大田市		26	28		54
江津市		120	30		150
奥出雲町	15人	32	48	15	110
飯南町			203	25	228
邑南町		36	42	24	102
益田市				120	120
計	15	680	997	775	2,467

4) 森づくりサポートセンター

森づくりに関する県民からの多様な要望に応えるため、平成19年9月に「島根県森づくりサポートセンター（以下「サポートセンター」という）」のホームページを設置し、開設から平成21年8月までに2,159件のアクセスがありました（表-8）。

サポートセンターでは、森づくりに関するボランティア活動や道具類の貸し出し等の情報提供、森づくりに関する指導者の紹介を行い、県民の自発的な森づくり活動を支援しています。

表-8 島根県森づくりサポートセンターアクセス推移

年	H19	H20	H21	計
アクセス数	331	1,201	627	2,159

※H21は8月までの数値

(2) 課題

県民1000人アンケートの結果、「森への興味や関心がある」又は「少しある」と回答した県民は86%となり、県民の森への関心が非常に高いレベルにあることが判明しました。

「森づくりボランティアに参加したいが機会がない」と回答した県民は、46%であることから、森づくりボランティアの活動情報の提供や、参加しやすい方法を検討する必要があります。

また、「水と緑の森づくり税を知っているか」について、20歳代は「知っている」「少し知っている」は20%であるのに対して、60歳代以上は47%となり、若年層ほど低い認知度でした（図-6）。特に、20歳代女性では15%と低い認知度でした。

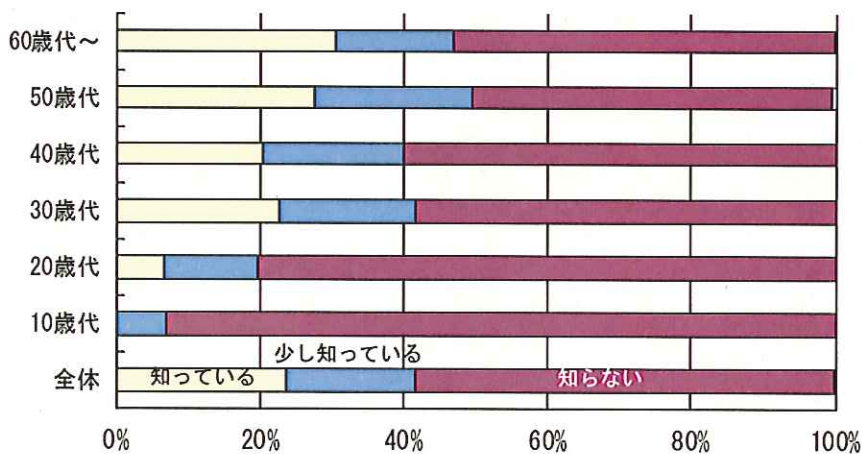


図-6 水と緑の森づくり税を知っているか（年代別）

森林に関する認知度についても同様の結果で、若年層になるほど森林に対する興味や関心が低くなる傾向にあることが伺えます。

若い人の目にふれる機会の高い場所で、より親しみやすくなるような広報活動（各種イベントやインターネット広報など）を実施し、若年層に向けた普及啓発活動を強化していく必要があります。

3 森づくり・資源活用実践事業

(1) 成果

県民の自主的な森づくり活動を推進する「森づくり・資源活用実践事業」では、平成17-20年度の4カ年間に140件の取り組みを採択し、実施実団体数136団体、およそ4万6千人の県民参加を得て、県民主体の森づくりを行うことができました(表-9、10)。

表-9 森づくり・資源活用実践事業の実績

	平成17年度	18	19	20	計
森を保全する取り組み	12件	9	6	9	36
森や木を利用する取り組み	27	27	12	7	73
併用	3	11	10	7	31
計	42	47	28	23	140
実施実団体数	39団体	47	27	23	136

表-10 森づくり・資源活用実践事業の県民参加数の実績

	17採択	18	19	20	計
平成17年度参加者数	5,168人	—	—	—	5,168
18	4,814	8,277	—	—	13,091
19	5,831	3,076	4,409	—	13,316
20	7,604	2,197	2,572	2,658	15,031
計	23,417	13,550	6,981	2,658	46,606

「森を保全する取り組み」では、植樹や森林教室が開催され、森に足を運ぶことのない県民がこの機会を捉えて森を訪れ、森にふれあい、島根の森の大切さを認識しました(写真-5)。



写真-5 森を保全する取り組み(平成17年度 益田市)

「森や木を利用する取り組み」では、多くの団体が木製備品（机・ベンチ等）の製作と設置を行い、県民に木と触れ合う場を提供できました（写真－6）。



写真－6 森や木を利用する取り組み（平成19年度 大田市）

また、140件の取り組みのうち、96件が林業団体以外の取り組みです（表－11）。自治会や教育機関は、この事業により新たに森づくりを始めた団体がほとんどであり、この事業をきっかけとして県民参加の森づくりに新たな広がりが見られました。

表－11 森づくり・資源活用実践事業の参加団体の状況

	自治会	教育機関	NPO	商工会 観光協会等	市町村	林業団体	計
森を保全する取り組み	5件		7	12	5	7	36
森や木を利用する取り組み	7	15	7	16		28	73
併用	9	4	3	11		4	31
計	21	19	17	39	5	39	140

（2）課題

○ 森づくり活動の支援

自治会、NPO及び林業事業体からの応募が多く、この事業により、県民参加の森づくりに新たな広がりが見られました。

しかし、ボランティアとはいえ、森林整備などを継続して行うためには、財源が必要となります。

このため、広がり始めた県民参加の森づくり機運をさらに深めていくために、継続活動に対する支援を行うなどにより、県民の森づくり活動を支援する必要があります。

○ 身近な森や緑

近年、遊歩道周辺森林での枯れ木の倒木被害が発生する恐れや、著しい景観の破壊などにより、森林の保健休養の機能が大きく低下しています（写真－7、8）。

このため、県民意見交換会や県民1000人アンケート調査で要望の多かった、自然公園や森林公園など、より身近に森や緑を感じられる活動の支援についても検討していく必要があります。

また、森林の持つ水源かん養等の公益的機能は、「伐採→利用→更新→保育→伐採→利用→更新・・・」という、林業生産活動（林業のサイクル）の結果として発揮されてきました。木を利用することは、森を守る重要な県民活動であることから、多くの県民が集まる施設で、ベンチ等の設置を行い、「木を利用して森を守る」という県民意識の向上を図ることが必要です。



写真－7 自然公園内で虫害により倒れたカシ（浜田市）



写真－8 松くい虫被害地を通る歩道（浜田市）

○ 森林教育

水を育む緑豊かな森を次世代に引き継いで行くために、県民の力で様々な取り組みが展開されていますが、その取り組みにより生まれ変わった森が、次世代でも大切に育まれていくことも重要な課題であり、県民からは子供たちを対象とした森林環境教育について多くの期待が寄せられています。

このため、子供たちが自然に学べるようなカリキュラムを教育機関と連携して構築していく必要があります。

4 県民再生の森事業

(1) 成果

10年以上間伐が行われていない高齢級（植栽後40年以上）の森林において不要木の伐採を行う「県民再生の森事業」では、平成17-20年度の4カ年間におよそ2,700haの整備を行い、水と緑を育んできました。5年目となる平成21年度で当初目安とした、3,500haを越える森林で不要木の伐採を行うことができる見込みであり、荒廃林の再生を確実に進めることができました（表-12, 写真-9）。

表-12 県民再生の森事業の実績

	平成17年度	18	19	20	計	21	合計
不要木伐採	214.32ha	314.28	899.54	1,291.23	2,719.23	800.00	3,519.37
広葉樹植栽	5.81	24.69	47.35	31.92	109.77		
侵入竹林伐採			14.83	17.65	32.48		

注：平成21年度は見込み



写真-9 県民再生の森事業により再生した森林（平成20年度 隠岐の島町）

また、県民に「県民再生の森事業」の成果を実際に見ていただくため、平成17年度と平成20年度に県内各地で「水と緑 記念の森」と「モデル林」をそれぞれ設置しました（表-13, 14）。これらは、県民の目に触れやすい主要道路沿いの森林で設定しています（写真-10, 11）。

表-13 水と緑 記念の森設置状況（平成17年度）

市町村	面積
雲南市	0.26ha
大田市	2.50
吉賀町	2.93
隠岐の島町	1.30
計	6.99



写真-10 水と緑 記念の森（平成17年度 大田市）

表-14 モデル林設置状況（平成20年度）

圏域	市町村	箇所数	面積	圏域	市町村	箇所数	面積
松江	松江市	4	3.87	県央	大田市	2	2.15
	安来市	2	2.74		美郷町	1	1.50
	東出雲町	1	0.39		邑南町	1	1.56
	計	7	7.00		川本町	1	0.66
雲南	雲南市	1	2.00		計	5	5.87
	奥出雲町	1	1.00	益田	益田市	3	3.01
	飯南町	1	2.00		吉賀町	1	0.20
	計	3	5.00		津和野町	1	1.00
出雲	出雲市	1	1.41		計	5	4.21
	斐川町	1	0.65	隠岐	隠岐の島町	1	0.31
	計	2	2.06		海士町	1	0.20
浜田	浜田市	1	5.90		西ノ島町	1	0.10
	江津市	1	2.00		知夫村	1	0.67
	計	2	7.90		計	4	1.28
				県計	28	33.32	



写真-11 水と緑の森づくりモデル林（平成20年度 吉賀町）

（2）課題

島根県の森林面積およそ50万haのうち、荒廃森林は23%に相当するおよそ11万haあり（表-3）、造林事業や水と緑の森づくり事業により、その再生を図ってきました。間伐未実施林のうちの壮齢水源林については、今期対策により3,500haの荒廃林の再生を図ってきましたが、引き続き不要木の伐採をすすめ、森林の再生を図る必要があります。

一方で、荒廃森林のうち未立木地や松枯れ林が壮齢林の間伐未実施林と同程度の3万haが存在していることから、次の点を解決していく必要があります。

1) 松くい虫被害地

松林面積は、積極的な造林により昭和 60 年には 107 千 ha ありましたが、松くい虫被害の拡大などにより、平成 19 年には 81 千 ha にまで減少しています（図-7）。

多くの松くい虫被害跡地が再造林されることなく放置されていて、森林の公益的機能の低下が懸念されています。

また、松くい虫被害跡地に無残に残る白骨のような枯れたマツは、倒木により人身被害に至る恐れがあるとともに、周辺景観の破壊、倒木が森林の維持管理の支障となるなど、多くの問題の原因となっており、松くい虫被害地の早急な再生が求められています（写真-12）。

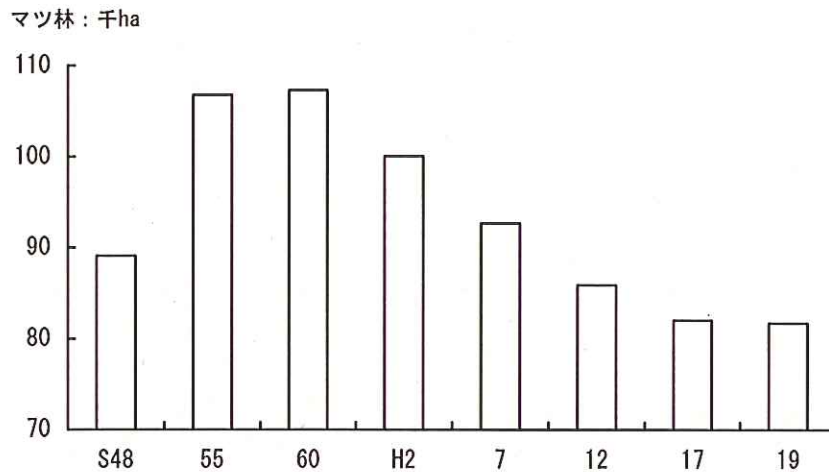


図-7 島根県マツ林の面積推移

資料：島根県森林資源関係資料

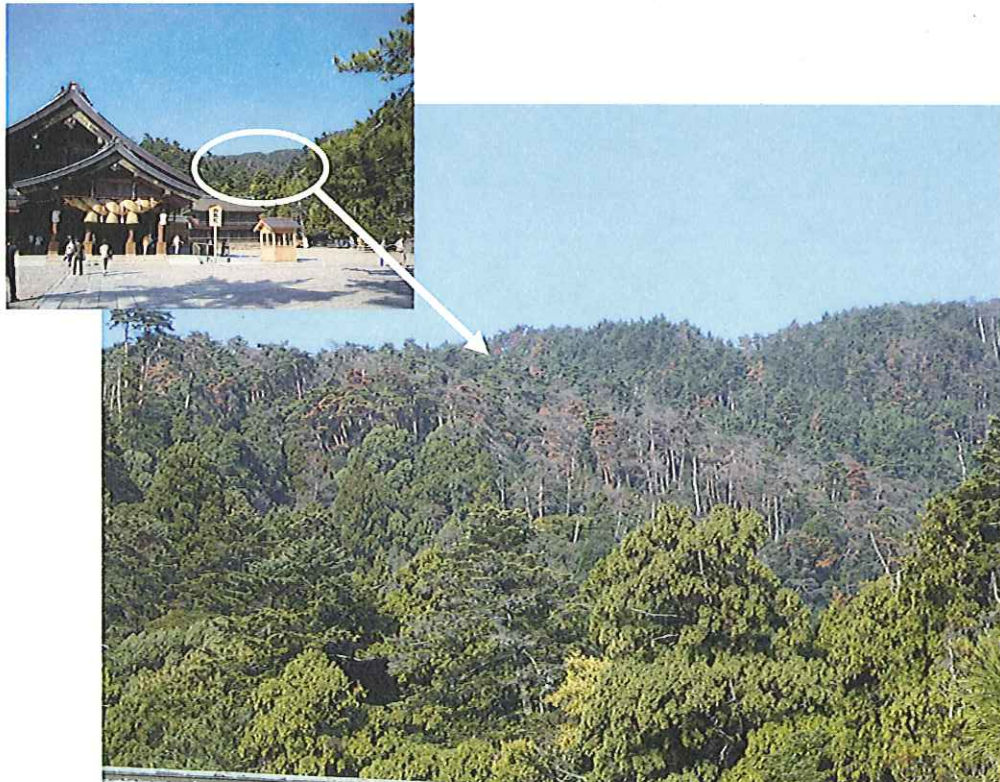


写真-12 松くい虫被害により景観を破壊している森林（出雲市）

2) 竹林

竹林の面積は、昭和48年には県全体で7万6千haでしたが、平成19年度末時点で1万3千haと2千7百ha（134%）増加しています（図-8）。

竹林は、いわゆる「里山」で手入れをされてきたことから、これが放置されれば、森林に侵入するだけでなく、隣接の耕作地や人家へ侵入し、集落を苦しめる一因にもなり（写真-13）、中山間地域の暮らしを守るためにも、拡大を続ける竹林対策を講じる必要があります。

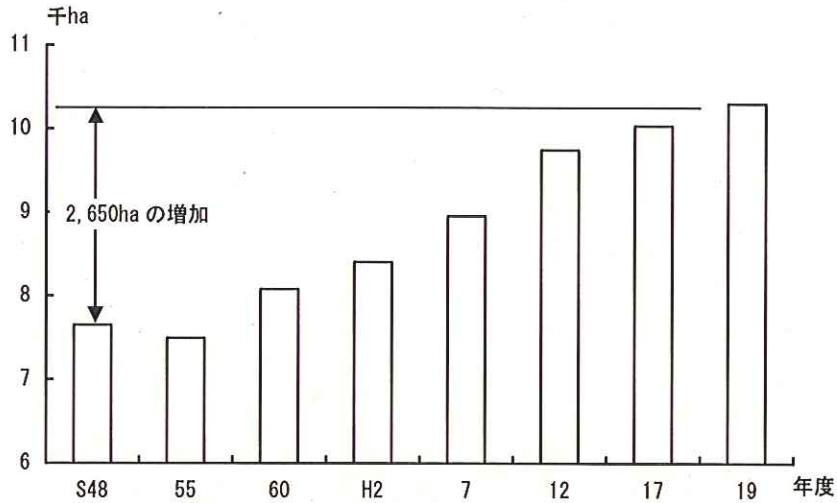


図-8 島根県竹林面積の推移

資料：島根県森林資源関係資料



写真-13 里山で放置された竹林（大田市石見銀山）

IV 見直し案

1 県民の意見

県民 1000 人アンケートに加えて、県民参加の森づくりの取り組みや荒廃森林の再生事業の成果を県民に紹介し、今後の水と緑の森づくりのあり方について県民意見を伺うため、県民と県との意見交換を開催しました（表-15、16、写真-14、15、16、17）。

表-15 県民意見交換会の開催

会場	とき	場所	参加者数
東部会場	平成 21 年 7 月 12 日	くにびきメッセ 小ホール	178 人
西部会場	平成 21 年 7 月 26 日	島根県立大学 コンベンションホール	163
隠岐会場	平成 21 年 7 月 18 日	隠岐島文化会館 集会室	116



写真-14 県民意見交換会（東部会場）の様子



写真-15 県民意見交換会（東部会場）での県民からの発言

表-16 県民意見交換会（各界代表）委員

開催	分野	所属	氏名
平成 21 年 8 月 12 日 松江東急イン	学識経験者	島根大学生物資源科学部教授	伊藤 勝久
	県民代表	水と緑の森づくり会議委員	駒川 きよみ
	林業	邑智郡森林組合長	森橋 静秋
	ボランティア	NPO 法人もりふれ倶楽部	野田 真幹
	環境	ホシザキグリーン財団課長	野津 登美子
	教育	国府小学校長	中谷 眞澄



図-16 県民意見交換会（各界代表）の様子



図-17 県民意見交換会（各界代表）の様子

(1) 水と緑の森づくり税について

1) 税負担について

水と緑の森づくり税の負担について聞いたところ、県民 1000 人アンケート調査では、賛成が 54%、どちらかという賛成が 29%となり、賛成と回答した県民が 83%となりました (図-9)。

県民意見交換会では、賛成が 87%、どちらかという賛成が 8%となり、賛成と回答した県民が 95%となりました (図-10)。

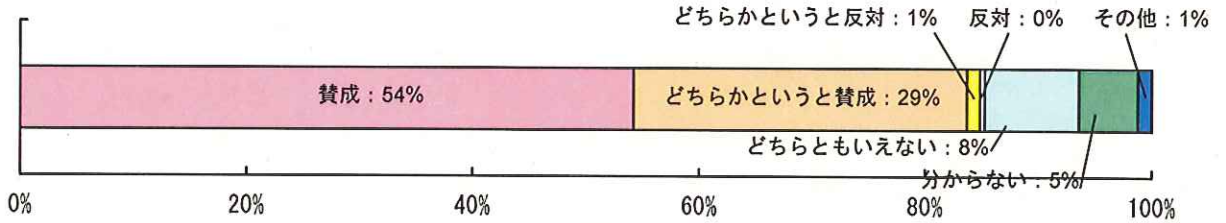


図-9 県民 1000 人アンケート調査 (税負担について)

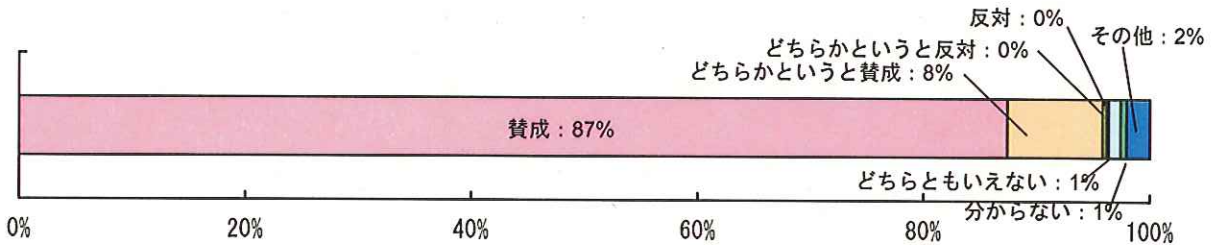


図-10 県民意見交換 (税負担について)

2) 税額について

水と緑の森づくり税額について聞いたところ、県民 1000 人アンケート調査では、500 円が 42%、1,000 円が 33%となり、現在の税額と同額の負担と回答した県民が多数を占めました (図-11)。

県民意見交換会では、500 円が 40%、1,000 円が 46%となり、1,000 円と回答した県民が多数を占めました (図-12)。

県民意見交換会 (各界代表) では、「委員意見は、1000 円が多数意見であった。最終的には、県に税率をゆだねる」という意見となりました。

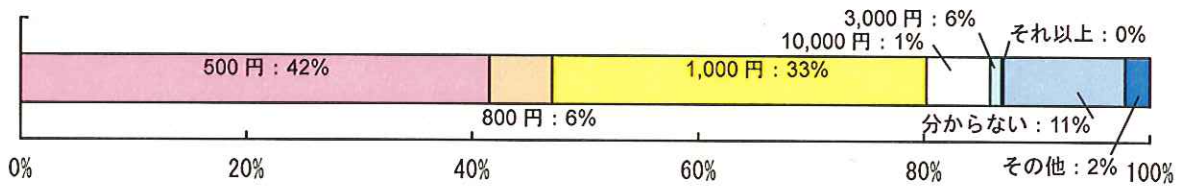


図-11 県民 1000 人アンケート調査 (税額について)

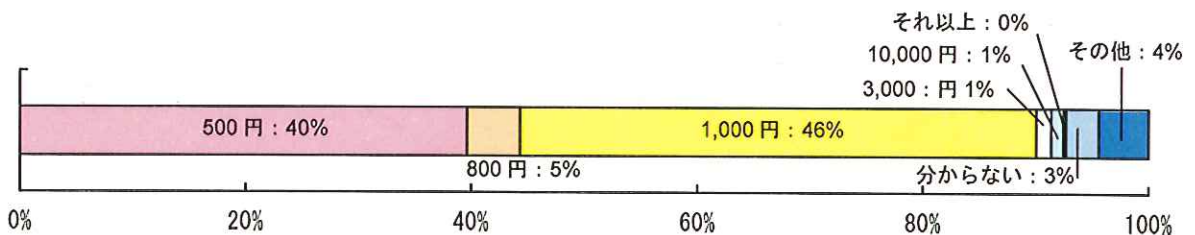


図-12 県民意見交換 (税額について)

(2) 水森税の使途について

水と緑の森づくり税の使途について聞いたところ、県民 1000 人アンケート調査では、多い順に松くい虫被害地の再生 (638 人)、子供たちに対する森林教育 (622 人)、気象災害からの復旧 (452 人)、竹やぶの伐採 (451 人) となりました (図-13)。

県民意見交換会では、多い順に子供たちに対する森林教育 (221 人)、竹やぶの伐採 (209 人) 松くい虫被害地の再生 (199 人)、気象災害からの復旧 (452 人)、となりました (図-14)。

県民意見交換会 (各界代表) では、竹やぶ、松くい虫被害跡地、気象災害の復旧は、県民にとって森林が荒れたシンボルになっていることを指摘したうえで、この税で全てではできないが、整備しなければならないこと、さらにNPOなどの団体が継続して整備を行えるような制度の充実が必要などと指摘されました。

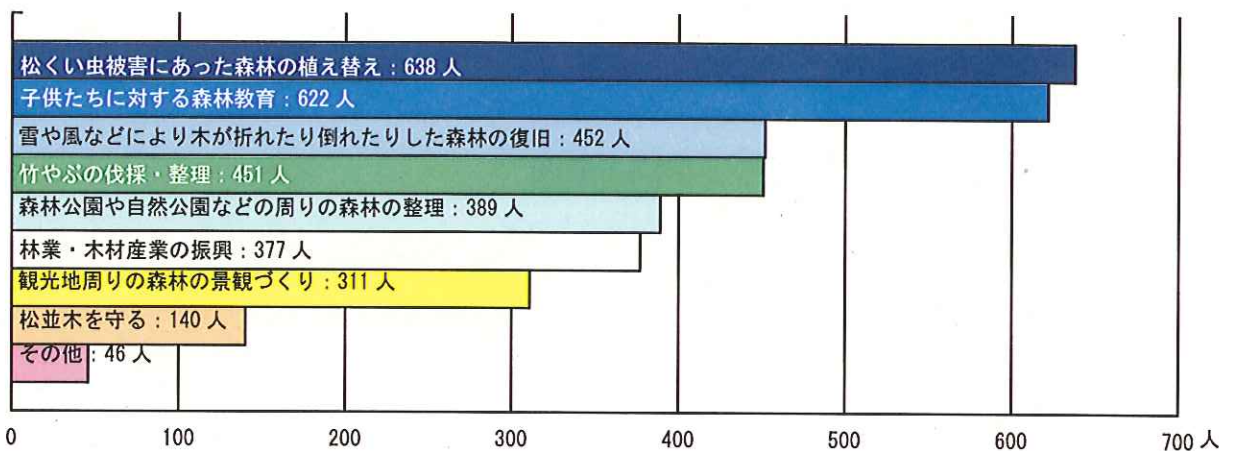


図-13 県民 1000 人アンケート調査 (使途について)

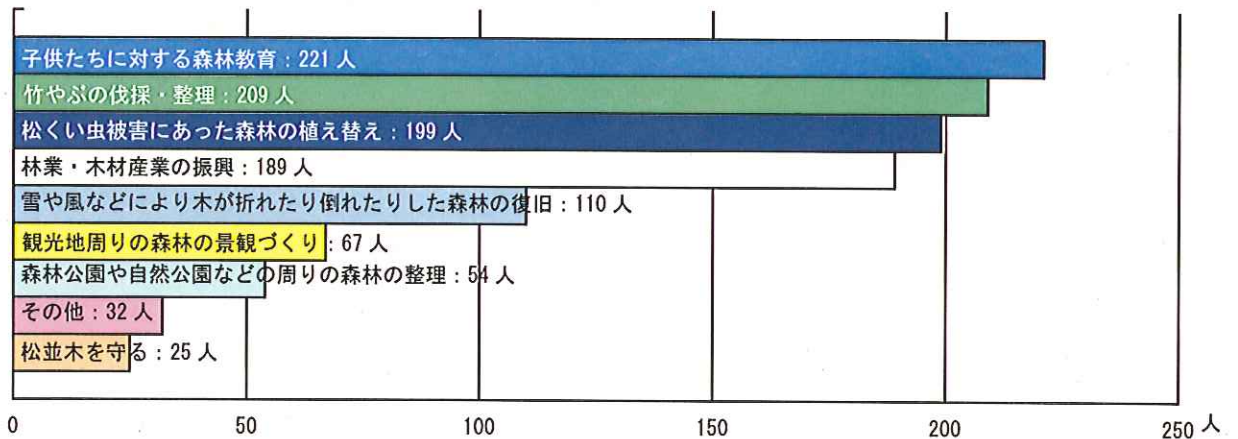


図-14 県民意見交換会 (使途について)

2 見直し内容

これまでの取り組みの中で、およそ4万6千人の県民が森づくりに参加し、森づくりの輪が確実に広がりを見せています。

県民の中には、森づくりボランティアへの参加希望が多いことから、森づくりボランティア活動の手法を工夫して、県民がより参加しやすい取り組みを展開します。

荒廃森林は、依然として多く存在していることから、引き続き再生を図っていく必要があります。また、松くい虫被害跡地や竹林に対しても対策を講じ、水を育む緑豊かな森づくりを進めます。

さらに、里山や観光地、森林公園等の周辺の身近な森や緑についても、県民が心豊かな生活を送るために保全し、次世代に引き継いでいく取り組みを進めます。

表-15 水と緑の森づくり事業見直しの内容

<p>県民参加の森づくり 【40,000千円程度】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森づくり情報交流・サポート体制の整備 水と緑の森づくり会議・普及啓発など ・ 県民のアイデアと参加による森づくり 森づくり・資源活用実践事業 <u>(2年目以降の活動支援)</u> <u>(森林公園や自然公園周辺森林整備)</u> ・ <u>豊かな森と緑づくり</u> <u>(里山や観光地周辺森林の景観対策)</u> <u>(木製ベンチの設置など)</u> ・ <u>学校での森林教育</u> <u>(モデル校での森林教育)</u>
<p>緑豊かな森の再生 【160,000千円程度】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民再生の森事業 不要木の伐採等 (3,500ha 700ha×5年) <u>竹林伐採</u> <u>松くい虫被害地の再生</u>

下線部：拡充事項

2 税額

税額は、次のとおりとします。

表-16 税額

現行	改正案
個人：年間500円	個人：年間500円
法人：年間均等割税率の5%相当額	法人：年間均等割税率の5%相当額
税収：およそ2億円（1年間）	税収：およそ2億円（1年間）
期間：平成17年4月1日から5年間	期間：平成22年4月1日から5年間

参考資料

資料一 森づくり・資源活用実践事業参加団体数市町村別実績

	市町村	平成17年度									18			19			20			合計			
		A			B			C			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
		計	1	2	計	1	2	計	1	2	計	1	2	計	1	2	計	1	2	計	1	2	
松江	松江市	3	4	7	2	6	2	10	2	1	2	1	2	1	1	1	5	11	4	20			
	安来市		1	1		2		2			2									5			
	東出雲町																						
雲南	雲南市	3	5	8	2	8	2	12	3	1	4	3	1	4	1	1	5	16	4	25			
	奥出雲町	2	4	6		2		2	2	1	3	2	1	3	1	1	2	9	1	12			
	飯南町		3	3							1			1		1	1	4		5			
出雲	小計	2	8	10	1	1	1	2	1	1	2	1	1	3	1	5	2	3	16	2	21		
	出雲市		3	3	1	5		6	1		1		1	2	1	1	4	3	10	1	14		
	斐川町									1			1			1	1	1	1	2			
県央	小計	3	3	3	1	5	6	6	1	1	2	2	1	1	1	2	2	4	11	1	16		
	大田市	1	3	4	2	2	4	4	2	2	4	1	1	1	1	1	1	4	7	2	13		
	美郷町					1	1	1								1	1	1	1	2			
浜田	川本町	1			1	1	2	2	1	1	2	1	1	1	1	1	3	2	2	1	5		
	小計	2	3	5	4	4	1	9	3	2	5	3	2	2	2	7	9	12	5	26			
	浜田市		1	2						2	1	3	1	1	1	2	1	3	3	7			
益田	江津市															1	1	1	1	1			
	小計	1	1	2						2	1	3	2	1	1	3	2	3	3	8			
	益田市	4	2	8	1	5	4	10	3	2	5	1	1	1	1	2	9	8	8	25			
隠岐	吉賀町	1		1		1	2	3											2	4			
	津和野町	3		3		1	1	1								2			4	6			
	小計	4	6	12	1	7	6	14	3	4	7	1	1	1	1	7	9	14	12	35			
合計	隠岐の島町	1	1	2					1		1		1	1	1	1	2	3	1	5			
	海士町															1	1	1	1	3			
	西ノ島町																						
合計	知夫村	1	1	2																			
	小計	12	27	39	9	27	11	47	6	12	28	9	7	23	36	73	31	140					
	注：単位＝団体、A＝森を保全する取り組み、B＝森を利用する取り組み、C＝併用																						

資料一 2 森づくり・資源活用実践事業参加者数市町村別実績

	市町村	平成17年度			18			19			20			累計			
		H17採択	累計	H17採択	H18採択	累計	H17採択	H18採択	累計	H17採択	H18採択	累計	H17採択		H18採択	累計	
		1,090	1,090	1,097	605	1,702	2,792	1,506	523	75	2104	4,896	1,461		302	219	1,982
松江	松江市	228	228		298	298	550	100	237	887	1,413	600	55	158	813	2,226	
	安来市																
	東出雲町																
雲南	小計	1,318	1,318	1,097	903	2,000	3,318	623	312	2,991	6,309	2,061	357	158	2,795	9,104	
	雲南市	498	498	307	38	345	843	26	183	494	1,337	341	40	206	588	1,925	
	奥出雲町	170	170	284	50	334	504	325	102	427	931	599		40	644	1,575	
出雲	飯南町	50	50	52	263	315	365	91	128	296	661	57	107		164	825	
	小計	718	718	643	351	994	1,712	701	144	362	2,929	997	147	246	1,396	4,325	
	出雲市	682	682	161	2,215	2,376	3,058	181	306	25	512	1,999	395	100	2,911	6,481	
島央	斐川町									118	118			110	41	151	269
	小計	682	682	161	2,215	2,376	3,058	181	306	143	630	1,999	395	210	458	3,062	6,750
	大田市	278	278	225	1,008	1,233	1,511	357	399	1,555	2,311	317	369	32	104	822	4,644
浜田	美郷町				24	24	24	24	24	24	48		20		215	235	283
	邑南町				817	817	817	206	206	206	1,023		144		167	311	1,334
	川本町	32	32	30	314	344	376	25	384	500	909	240		178	418	1,703	
益田	小計	310	310	255	2,163	2,418	2,728	382	1,013	2,055	3,450	557	533	32	664	1,786	7,964
	浜田市	782	782	17		17	799	77		278	355	141		470	255	866	2,020
	江津市	782	782	17		17	799	77		278	355	141		470	255	866	2,020
益田	小計	1,153	1,153	2,082	2,121	4,203	5,356	1,850	847	700	3,397	1,217	656	1,268	688	3,829	12,582
	吉賀町	50	50	74	185	259	309	22	54		76	36	47			83	468
	津和野町	45	45	81	9	90	135	25		175	200	110		90		200	535
隠岐	小計	1,248	1,248	2,237	2,315	4,552	5,800	1,897	901	875	3,673	1,363	703	1,358	688	4,112	13,585
	隠岐の島町	110	110	404		404	514	537		50	587	1,101	486	5	268	759	1,860
	海士町				330	330	330		79	155	234	564	62	93	30	185	749
隠岐	西ノ島町									85	85					85	
	知夫村									94	94					94	
	小計	110	110	404	330	734	844	537	79	384	1,000	486	62	98	944	2,788	
合計	5,168	5,168	4,814	8,277	13,091	18,259	5,831	3,066	4,409	13,316	31,575	7,604	2,197	2,572	15,031	46,606	

注：単位＝人

資料-3 県民再生の森事業（不要木の伐採）市町村実績

県地方機関	市町村	平成17年度	18	19	20	計
松江	松江市	8.65 ha		12.32	15.35	36.32
	安来市	11.43	30.48	52.91	71.19	166.01
	東出雲町	3.65			4.50	8.15
	小計	23.37	30.48	65.23	91.04	210.48
雲南	雲南市	29.78	23.23	41.97	61.16	156.14
	奥出雲町	1.60	2.49	34.94	93.73	132.76
	飯南町			16.98	16.00	32.98
	小計	31.38	25.72	93.89	170.89	321.88
出雲	出雲市	25.20	6.80	34.23	50.03	116.26
	斐川町				1.32	1.32
	小計	25.20	6.80	34.23	51.35	117.58
県央	大田市	44.33	49.83	69.99	87.90	252.05
	美郷町	23.60	14.00	46.50	79.24	163.34
	邑南町		1.76	15.22	39.16	56.14
	川本町			22.93	48.04	70.97
	小計	67.93	65.59	154.64	254.34	542.50
浜田	浜田市	5.11	38.26	77.74	71.80	192.91
	江津市	3.31	5.49	47.79	106.60	163.19
	小計	8.42	43.75	125.53	178.40	356.10
益田	益田市	31.23	41.57	191.15	254.18	518.13
	吉賀町	4.69	24.38	97.72	97.44	224.23
	津和野町	13.74	12.06	12.90	51.92	90.62
	小計	49.66	78.01	301.77	403.54	832.98
隠岐	隠岐の島町	8.00	63.93	112.70	119.21	303.84
	海士町			11.55	12.65	24.20
	西ノ島町				5.81	5.81
	知夫村				4.00	4.00
	小計	8.00	63.93	124.25	141.67	337.85
合計		214.32	314.28	899.54	1,291.23	2,719.37

注：次の2の事業合計

①荒廃林の水を育む緑豊かな森への再生事業（H17～）

②多様な主体による森の再生と県民参加の森づくりフィールドの確保（H19～）

資料一 4 県民意見交換会意見整理表

	とき	場所	参加者数
東部会場	平成 21 年 7 月 12 日 13:30-15:00	くにびきメッセ 小ホール	178人
西部会場	平成 21 年 7 月 26 日 13:30-15:00	島根県立大学 コンベンションホール	163
隠岐会場	平成 21 年 7 月 18 日 10:00-11:30	隠岐島文化会館 集会室	116

分野		意見	回答
税		<ul style="list-style-type: none"> 増額をしていただきたい (東部) 継続を望む (東部) 1,000 円に上げて施策の展開を望む (隠岐) 県は、どのような方向で考えているのか (西部) 	<ul style="list-style-type: none"> 参考にさせていただく 税額はいろいろな意見がある。参考にさせていただく
用途	木材の利用	<ul style="list-style-type: none"> 街の中にベンチを置き街中の人に伝わりやすくしては？ (東部) 伐採木の燃料化も検討されたい (東部) 木を使うことを考えられたい (東部) バイオマス利用などを検討されたい (西部) 	<ul style="list-style-type: none"> 間伐材のベンチも検討すべき課題 県産材が使われるよう努力している 循環型産業の構築を図っている
	荒廃森林の再生	<ul style="list-style-type: none"> 3,500haの間伐では再生が間に合わない (東部) 最終的な目標は？ (東部) 竹林整備に予算を割いてももらいたい (東部・隠岐) 利用間伐の支援ができないか (隠岐) 国の補助金に継ぎ足すことはできないか (隠岐) 荒廃森林の整備は水森税できちんと整備してもらいたい (西部) 	<ul style="list-style-type: none"> 荒廃森林は国の予算も使いながら解消を図っている 緊急経済対策関連事業で竹林伐採を行う 川下の需要拡大が重要と考える 補助事業に水森税を充てるべきではないという考え方 荒廃した森林の整備が第一 今年の3月に益田で実施された
	森づくりの実践 新たな用途	<ul style="list-style-type: none"> 身近な緑を増やしてほしい (東部) 	<ul style="list-style-type: none"> 緑は街の中でも森でも必要なもの。よく配慮していきたい 将来を担う世代に体験してもらおうのは大変重要と認識している
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 子供の森林教育を進めてもらいたい (西部) 野生動物の餌場づくりができないか (東部) 県民が山に入る強化月間が作れないか (東部) 浜田の大学に農林水産系の学部ができていないか (西部) 	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣被害も考えて森林の適切な整備を図る 水森税を活用して県民に呼びかけたい 産業として魅力が出れば人材育成のありかた検討したい

資料一5 県民意見交換会（各界代表）委員意見要旨

H21.8.19 於：松江東急イン

委員	課税に対する意見	用途に対する意見
伊藤委員（座長） （島根大学生物資源科学部教授）	徴収方法：現行方式が妥当 税額：整備すべき森林面積など継続性を担保する適正な額とし、500円も含め考える必要がある	<ul style="list-style-type: none"> 最も基本的で公益的な森林整備や森林環境教育などソフト事業を長期にわたり実施し、森林整備面積の増加と県民理解の促進を図るべき
野田委員 （NPO法人もりふれ倶楽部事務局長）	税額：1000円	<ul style="list-style-type: none"> 都市緑化は、緑の羽根募金でやればよい 現在の県民再生の森事業を核としてやってもらいたい。NPOは職員をかかえていることから、活動の継続性に配慮した制度設計をしてもらいたい
駒川委員 （水と緑の森づくり会議委員）	税額：1000円又は800円 法人は、一律増税ではなく、寄付金を募る	<ul style="list-style-type: none"> 荒廃森林の整備をしっかりと行うべき
野津委員 （島根県自然環境保全審議会委員）	水森税を続けることが必要	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験ができる仕掛けづくりが必要
森橋委員 （島根県森林組合連合会副会長）	税額：1000円	<ul style="list-style-type: none"> 子供に対する森林教育は大切 林業は収益性が見込めないため、造林事業では、所有者負担のない方法を水森税でできないか
中谷委員 （島根県小学校長会副会長）	税額：1000円とし、取り組みの維持・拡大を図るべき	<ul style="list-style-type: none"> 子供の森林教育だけでなく、大人の森林教育も必要
座長まとめ	委員意見は、1000円が多数意見であった。最終的には、県に税率をゆだねる	<ul style="list-style-type: none"> 森林整備の継続性を担保するよう制度を充実 竹やぶ・松くい虫被害跡地・気象災害は、県民にとつて、森林が荒れたシンボルとなっている。水森税で全てできないが、整備しなければならぬ部分であることは間違いない NPOなどの団体が継続して整備を行えるような制度の充実が必要 子供と大人の森林教育の充実

森林整備にかかる地方独自課税の各県取り組み状況

都道府県	税の名称	導入時期	課税		
			方式	個人	法人
高知県	森林環境税	H15.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	年間 500 円
岡山県	おかやま森づくり県民税	H16.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
鳥取県	森林環境保全税	H17.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
島根県	島根県水と緑の森づくり税	H17.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
山口県	やまぐち森林づくり県民税	H17.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
愛媛県	森林環境税	H17.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
熊本県	水と緑の森づくり税	H17.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
鹿児島県	森林環境税	H17.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
岩手県	いわての森林づくり県民税	H18.4	県民税均等割 超過課税	年間 1,000 円	均等割額の 10%増
福島県	森林環境税	H18.4	県民税均等割 超過課税	年間 1,000 円	均等割額の 10%増
静岡県	森林づくり県民税	H18.4	県民税均等割 超過課税	年間 400 円	均等割額の 5%増
滋賀県	琵琶湖森林づくり県民税	H18.4	県民税均等割 超過課税	年間 800 円	均等割額の 11%増
兵庫県	県民緑税	H18.4	県民税均等割 超過課税	年間 800 円	均等割額の 10%増
奈良県	森林環境税	H18.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
大分県	森林環境税	H18.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
宮崎県	森林環境税	H18.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
山形県	やまがた緑環境税	H19.4	県民税均等割 超過課税	年間 1,000 円	均等割額の 10%増
神奈川県	水源環境保全・再生のための個人 県民税の超過課税措置	H19.4	県民税均等割・ 所得割超過課税	均等割：300 円 所得割：0.025%	なし
富山県	水と緑の森づくり税	H19.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
石川県	いしかわ森林環境税	H19.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
和歌山県	紀の国森づくり税	H19.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
広島県	ひろしまの森づくり県民税	H19.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
長崎県	ながさき森林環境税	H19.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
秋田県	秋田県水と緑の森づくり税	H20.4	県民税均等割 超過課税	年間 800 円	均等割額の 8%増
茨城県	森林湖沼環境税	H20.4	県民税均等割 超過課税	年間 1,000 円	均等割額の 10%増
栃木県	とちぎの元気な森づくり県民税	H20.4	県民税均等割 超過課税	年間 700 円	均等割額の 7%増
長野県	長野県森林づくり県民税	H20.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
福岡県	森林環境税	H20.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
佐賀県	佐賀県森林環境税	H20.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
愛知県	あいち森と緑づくり税	H21.4	県民税均等割 超過課税	年間 500 円	均等割額の 5%増
30 県					